

社団法人日本超音波医学会第 80 回学術集会を終えて

会長 鄭 忠和

(鹿児島大学大学院 循環器・呼吸器・代謝内科学)

社団法人日本超音波医学会第 80 回学術集会を 2007 年 5 月 18 日から 20 日までの 3 日間、鹿児島市の城山観光ホテルとかごしま県民交流センターで開催しました。循環器、消化器、産婦人科、乳腺・体表、泌尿器科、小児科、整形外科など各領域の医師、検査技師および理工学者など約 2500 名が参加し活発な討議が行われました。

本学会を鹿児島の地で開催できましたことをこの上なく光栄に存じます。学術集会開催に際しましては九州内で活躍しておられる各領域の先生方 29 名に実行委員として参加していただきました。実行委員会の先生方にはメインテーマの作成、各領域におけるシンポジウム等の企画、海外招待者の人選から演題の査読、採択、プログラムの編成、座長の選出、学会場での運営にいたるまで、最初から最後まで多大なご協力をいただきました。査読に際しましてはこれらの実行委員の先生方に加えてさらに 5 名の査読委員の先生方にもご協力いただきました。超音波医学会九州地方会の前運営委員長の小林利次先生と平田経雄先生には顧問として、また千田彰一超音波医学会理事長と松崎益徳前理事長にはアドバイザーとしてご指導いただきました。これらの先生方のご協力なくしては学会は開催できなかっただろうと考えます。本当にありがとうございます。

今回の学術集会では「超音波工学と医学の融和：やさしい医療を目指して」、「Integration of Ultrasonic Technology and Medicine for Patient Care」をメインテーマに掲げました。超音波医学は無侵襲な検査であり、患者さんにやさしい医療であることはいうまでもありませんが、今回は特に従来の学術集会で行なわれていた E (engineering) と M (medicine) の連携が図れるように企画し、座長の先生方にもお願いしました。

Invited Lecture には欧米・アジアから著名な先生方を多数お呼びし、それぞれの領域で最新のホットな御講演を拝聴できました。ロシアからは宇宙における超音波医学のパイオニアでありご自身も宇宙飛行士の Oleg U. Atkov 先生に

“Ultrasound Investigation in Microgravity – Personal Inflight Study –” の御講演をしていただきました。米国からは心エコー図学で高名なクリーブランドクリニックの James D. Thomas 先生に最近話題になっています “Ventricular Torsion: The Link Between Systole and Diastole” の御講演、メイヨークリニックの Marek Belohlavek 先生には “Contrast Echocardiography – Novel Approach to Attenuation Compensation of Harmonic Signals Generated by Microbubbles” の御講演をしていただきました。カナダからは超音波の基礎的研究で有名な Kullervo Hynynen 先生に “Focused Ultrasound Interventions” の御講演をしていただきました。ヨーロッパからはイギリスの Michael Y. Henein 先生に “Doppler Echocardiographic Basis for Successful Pacing for Heart Failure”, オーストリアの Gerald Maurer 先生に “The Impact of Echocardiography in Valvular Heart Disease: Difficult Issues in Aortic and Mitral Valve Disease” の御講演をしていただきました。イタリアからは消化器領域の超音波研究で高名な Guido Torzilli 先生に “Intraoperative Ultrasonography in Liver Surgery: State of the Art and New Advancements” の御講演、オーストラリアからは産婦人科領域で高名な Brian J. Trudinger 先生に “Doppler Ultrasound and Fetal Welfare: Today and Tomorrow” の御講演、韓国の Won-Jin Moon 先生に甲状腺腫瘍に関する “Benign versus Malignant Thyroid Nodules: Ultrasonographic Differentiation” の御講演をしていただきました。

また台湾の Tsui-Lieh Hsu 先生, Fen-Chiung Lin 先生, Chua Sarah 先生, 中国の Cheuk-Man Yu 先生, さらに韓国の Namsik Chung 先生, Dae-Won Sohn 先生, Jae-Kwan Song 先生には “International Symposium: Echocardiographic Evaluation of Cardiac Function 2007” あるいは “International Echocardiographic Seminar” で最新の心エコーに関する御講演をしていただきました。韓国の Eun-Soon Hwang 先生にはパネルディスカッション “超



写真1 ポスター会場にて

音波医療における技師の役割と教育”で御講演していただきました。これらの先生方の御協力にも感謝いたします。

また超音波医学の基礎から臨床の全領域にわたる19のホットなシンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップも企画しました。これらの中には前述の2つの英語のシンポジウムも含まれており前述のアジアからの先生方に加えて4人の日本人の先生方にも英語で講演していただきました。それぞれのテーマは、“エンジニアフォーラム：超音波イメージング技術の最前線”、“血管エコー検査の標準化をめざして”、“超音波の計測精度に関する定量化技術の基礎から臨床”、“血流情報は、何処まで診られるようになったか?”、“超音波を利用したDrug Delivery Systemの最前線”、“ドプラエコーの泌尿器科疾患への応用”、“結節性甲状腺腫の定量的評価”、“産婦人科ハイリスク患者の超音波診療”、“妊娠中期の胎児異常のスクリーニング”、“手術場・ICUでの心エコー：外科・内科・麻酔科の連携”、“高齢者の弁膜症を考える・特に高齢者のASについて”、“肝臓診断最近の動向、腹部領域におけるInterventional sonography”、“超音波生体作用の治療への展望：基礎と臨床”、“検査法評価に関する問題点を探る：あなたならどうしますか?”、“超音波医療における技師の役割と教育（超音波検査士育成を考える）”でした。

学会員に教育の場を提供することにも配慮しました。まず学術集会の中に5つの教育講演を企画しました。今回で6回目となる教育セッションは各領域で話題になっているテーマに沿って教育委員会が企画したものであります。今回は講演の数を初級・中上級のレベルからなる23に増やして実施されました。



写真2 お茶会にて

また教育セッションでは初めての試みとして消化器、循環器領域の症例検討も行われました。どのセッションも本邦における第一人者の講演であり、参加者が多く好評でした。

一般演題は査読により343題の演題を採択し、口演・ポスターセッションのいずれかで発表していただきました。なるべく同じ領域の企画が同時進行しないように配慮しましたが、シンポジウムなどの企画が多く、循環器と消化器領域では2つの企画が同時進行して会員の皆様にご迷惑をおかけした面もありました。口演とポスターセッションが重ならないように時間的に配慮したかきもあり、ポスターセッションにも多数の会員に参加していただきました(写真1)。ランチョンセミナーも会員の皆様に幅広い講演の機会を設けるべく超音波医学の領域のみならず生活習慣病領域の薬剤に関するセミナーも加えて14のセミナーを企画し好評でした。機器展示場は城山観光ホテルのメインロビーであるエメラルドホールに準備しました。各企業の最新の機器が展示され、多数の参加者がありました。また超音波主要企業6社による18のフロンティアテクノロジーも開催され、より実践的な講演が行われました。

今回の学会では会場が7つありましたが、開会と閉会の挨拶は前もってビデオに記録し、全会場で同時に映像を流しました。このため全会場で同時に開会と閉会のセレモニーをすることができました。また2つの会場間のシャトルバスを10分毎に運行させました。また会員の皆様に鹿児島県にお迎えするおもてなしの気持ちとして、城山観光ホテル内にお茶会の席を設けました(写真2)。また、趣向を凝らした錦江湾サンセットクルーズや会員懇親会を企画し多数の会員の皆様に参加していただきました。



写真3 会員懇親会にて海外招待者と共に



写真4 会員懇親会 Final Scene

(写真3, 4). 発表・討論で疲れた頭をリフレッシュして会員相互の親睦を深める場としてお役にたてたのではないかと思います。幸い3日間とも天気恵まれ、大きなトラブルもなく、会員の皆様にも喜んでいただいていたいい学会ができた感謝しています。

最後に今回の学会で開催されました Invited Lecture, シンポジウム, パネルディスカッション, 教育セッションの主要なものは DVD に収録しまし

た。同時進行のために聞けなかった企画やもう一度是非聞いてみたい講演などあるかと思いますので教育的効果は大きいと考えています。まず、学術集会と教育セッションの双方に参加されました会員の皆様に無料で配布しますので後付の申込書(日本超音波医学会 第80回学術集会 記録DVD 発行について)によりファックスで申し込み下さい(枚数に制限あり、締め切り 10 月 15 日)。